

海外へ、新市場へ、未来に挑戦

オーツケミカル



ベトナムに進出

ウレタンゴムの専門メーカーであるオーツ

ケミカルは、シ（挑戦）してきた。1971年、これまでは国内中心にオーツタ（現住友ゴム工業）の海外へも打って出業から分離・独立して設立された。技術と品質のパイオニアという設立以来のDNAを維持しながら、顧客（ユーザー）の厳しい品質が要求される機能性ゴム製品づくりにチャレンジ

ケミカルは、シ（挑戦）してきた。1971年、これまでは国内中心にオーツタ（現住友ゴム工業）の海外へも打って出業から分離・独立して設立された。技術と品質のパイオニアという設立以来のDNAを維持しながら、顧客（ユーザー）の厳しい品質が要求される機能性ゴム製品づくりにチャレンジ

いる。同社の海外への直接輸出比率はまだ売上げ全体の5%以下に留まっている。今後はベトナム工場立ち上げを東南アジア市場開拓の皮切りとして、海外の売り上げを増大していきたい考えだ。

「エコロジーとエコノミーを両立」ウレタンゴムの弾性とプラスチックの剛性を併せ持つ弾性体として知られている。中でも耐摩耗性に優れ、身近なところでは券売機や釣銭機

の送りローラーなどに使われている。このほかに、耐薬品性・耐油性に優れ、物理的特性として強度が大きいことや耐荷重性がある。さらに、高弾性でエネルギー吸収性が高いことなども特徴に挙げられる。このウレタンゴムは材料の調合や製法によって硬度が自由に調節でき、柔軟性のある素材だからこそ用途が広がっている。同社のウレタンゴム製品は「マイティブ

現在同社の売り上げの柱になっているのが、鉄鋼メーカーに納めるウレタンロールとフォークリフトのタイヤや遊園地のジェットコースターなどに使われる車輪だ。それぞれ売上高の20〜25%を占める。

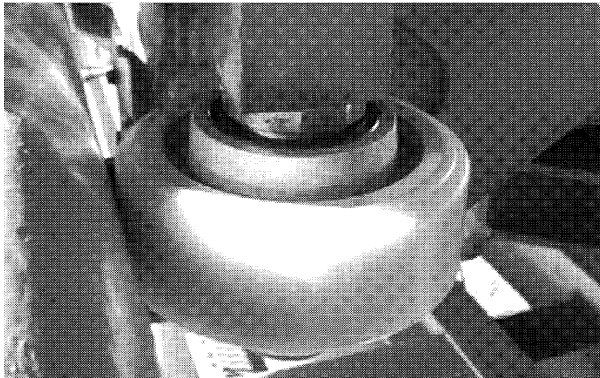
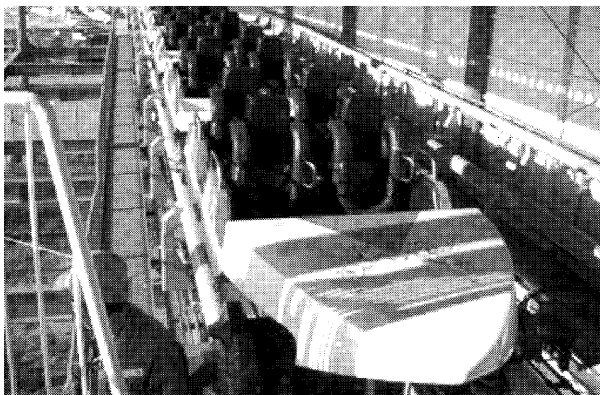
品性の必要なリングロール、耐溶剤性が求められるアプリケーターロールまで幅広く対応している。そのほか、ロールの用途によって、低床の車両が作れる「反発弾性が高い数を備え、鋼板エッジのため、転がり抵抗が低くなり、消費電力を低減した省エネ車両が作れる」「清潔さと美しさが求められる医薬品、化粧品、食品などの工場・倉庫で走行しても床面を汚さない」などの特徴が生まれる。そして人工知能（AI）とセンサーを装備した自動運転の新交通システムの車輪にも使われている。

高精度な製品の仕上がりが必要されるスクリーン印刷では、スクリーン印刷の材質が製品品質を左右する。同社ではこのスクリーン印刷においても各種用途に対応した材質、硬度をラインアップしている。また、耐震、免震、防震の分野にも新商品・新技術展開を図っている。激変する市場

このほかにも、O.A. 機器から除雪作業車の部品まで、さまざまな用途に向けて製品を提案している同社だが、今最も力を入れているのがスクリーン印刷に用いられるスキーシの用途展開だ。

3年後の設立50周年を見据えた同社の挑戦が続いている。

合田 研吾 社長



合田 研吾 社長

オーツケミカル 株式会社

<http://ohtsukachemical.racms.jp/>

〒592-0013

大阪府高石市取石5丁目9番1号

TEL 072-275-1170(代) FAX 072-275-1176